

「豊岡市人口ビジョン」(2015年10月30日)と 2015年国勢調査の比較

中嶋 圭介
神戸市外国語大学准教授
豊岡市地方創生戦略アドバイザー
2017年3月27日

本稿の目的

「豊岡市人口ビジョン」「豊岡市地方創生総合戦略」の公表時点(2015年10月30日)で得られる最新の人口統計は、2010年国勢調査結果によるものであったため、基準推計、政策目標推計の基準年は2010年に置かれていた。このため、施策開始時点(2015年)の実績値がない状態であった。

本稿の目的は、2015年国勢調査結果によってビジョンの実績値を2010年から2015年まで更新することによって、(1)本市基準推計との比較によって推計の精度を確認しつつ、(2)総合戦略の政策効果測定のため2015年時点の実数値を整理することにある。

概要

2017年3月末時点で公開されている2015年国勢調査の結果によれば、人口高齢化・人口減少は、本市基準推計に沿った形で進行している。良く言えば、本市基準推計が今のところ高い精度を維持している。悪く言えば、人口動態の悪化に歯止めがかかっていない。

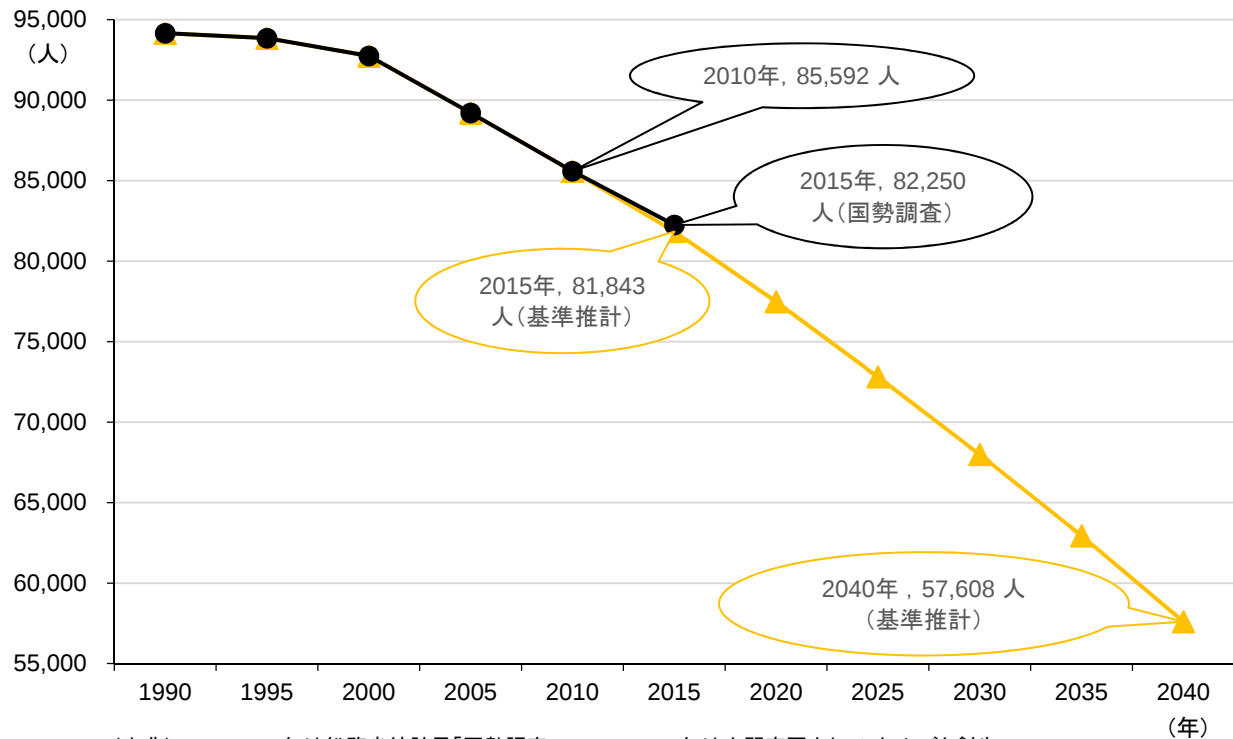
人口動態変化の要因別推移をみると、以前より出生数減少、死亡数増加によって自然減少が拡大している。

社会減少については、女性の移動パターンが前回とほぼ同じなのに対して、男性の転出超過が若干収束し、回復率が34.2%から39.5%に上昇している。地域別移動のパターンも前回とほぼ同じである。関西圏の大都市に転出超過、但馬・丹後・丹波地域の周辺自治体(福知山市や朝来市を除く)から転入超過である。

(1)総人口

豊岡市の総人口は、2010～2015年の間に85,592人から82,250人に減少した(2010年比-3,342人、-3.9%)。2015年作成の本市「基準推計」では、2015年に81,843人と推計していたため若干それを上回る水準で推移したことになるが、誤差の範疇であり、引き続き「基準推計」の示すトレンドに沿って人口減少が続いていると考えられる(図1)。

【図1】総人口の推移と将来推計(1990～2040年)



(出典)1990～2015年は総務省統計局「国勢調査」、2015～2040年は内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局提供人口推計ワークシート(CD-ROM)により作成した本市基準推計

(2)旧市町別・総人口

2010～2015年の旧市町別・総人口の推移をみると、旧但東町(2010年比－10.3%)、旧竹野町(同－9.6%)の人口減少率が突出して高く、旧城崎町(同－6.9%)、旧日高町(同－3.7%)、旧豊岡市(同－2.7%)、旧出石町(同－2.6%)と続く。

過去 20～30 年間のトレンドをみると、旧但東町、旧竹野町の人口減少率が加速しつつあるように見える。但し、この減少が自然増減・社会増減のいずれによるものなのか、後者の場合、但東・竹野から市内の他旧市町への移動によるものなのか(市全体で見れば増減なし)、市外への移動によるものなのか、より詳細な分析を要する。

【表1】現豊岡市と合併前の旧市町別・総人口の推移

総人口(人)

	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015
豊岡市	96,086	94,163	93,859	92,752	89,208	85,592	82,250
旧豊岡市	47,712	47,244	47,742	47,308	45,997	44,598	43,375
旧城崎町	4,958	4,748	4,592	4,345	3,973	3,778	3,519
旧竹野町	6,306	6,018	5,880	5,751	5,444	4,973	4,496
旧日高町	19,325	18,822	18,666	18,410	17,697	17,242	16,609
旧出石町	11,204	11,001	10,917	11,207	10,824	10,259	9,996
旧但東町	6581	6330	6062	5731	5273	4742	4,255

減少数(5年間累積, 人)

		1985-90	1990-95	1995-00	2000-05	2005-10	2010-15
豊岡市		-1,923	-304	-1,107	-3,544	-3,616	-3,342
旧豊岡市		-468	498	-434	-1,311	-1,399	-1,223
旧城崎町		-210	-156	-247	-372	-195	-259
旧竹野町		-288	-138	-129	-307	-471	-477
旧日高町		-503	-156	-256	-713	-455	-633
旧出石町		-203	-84	290	-383	-565	-263
旧但東町		-251	-268	-331	-458	-531	-487

減少率(5年間累積, %)

		1985-90	1990-95	1995-00	2000-05	2005-10	2010-15
豊岡市		-2.0%	-0.3%	-1.2%	-3.8%	-4.1%	-3.9%
旧豊岡市		-1.0%	1.1%	-0.9%	-2.8%	-3.0%	-2.7%
旧城崎町		-4.2%	-3.3%	-5.4%	-8.6%	-4.9%	-6.9%
旧竹野町		-4.6%	-2.3%	-2.2%	-5.3%	-8.7%	-9.6%
旧日高町		-2.6%	-0.8%	-1.4%	-3.9%	-2.6%	-3.7%
旧出石町		-1.8%	-0.8%	2.7%	-3.4%	-5.2%	-2.6%
旧但東町		-3.8%	-4.2%	-5.5%	-8.0%	-10.1%	-10.3%

(出典)総務省統計局「国勢調査」

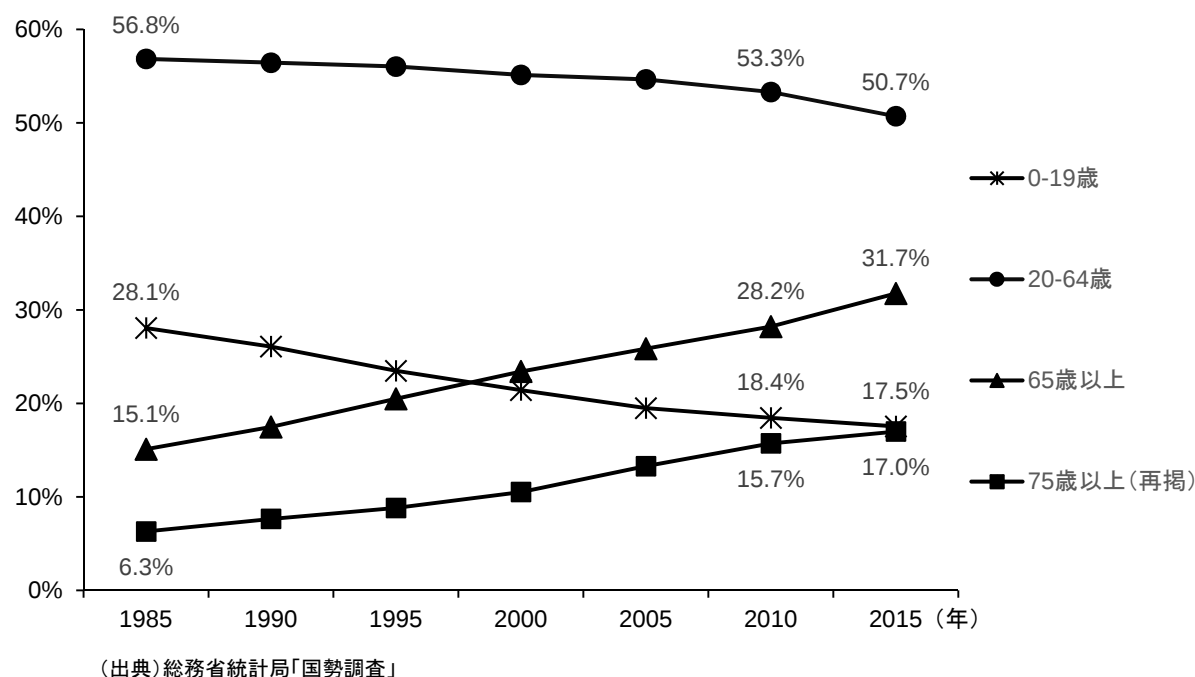
(3)年齢別人口

年齢別人口についても、国勢調査、基準推計の 2015 年数値の差は、誤差の範疇である(表2)。基準推計にほぼ沿って推移している。

65 歳以上の高齢化率は、2010～2015 年に 28.2%から 31.7%に 3.5%ポイント上昇した(図2)。

同期間中、75 歳以上の後期高齢者率も 15.7%から 17.0%に上昇した。これにより、2015 年現在、後期高齢者と若年人口の割合がほぼ並んだ状況である。

【図2】年齢別人口の割合(1985～2015 年)



【表2】年齢別人口(人)と割合(%)

	国勢調査(実績値)							基準推計		
	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2015	2040	2060
総数	96,086	94,163	93,859	92,752	89,208	85,592	82,250	81,843	57,608	38,044
0～19 歳	26,966	24,554	22,047	19,869	17,391	15,791	14,426	14,492	8,448	4,949
20～64 歳	54,614	53,144	52,582	51,128	48,752	45,625	41,710	41,284	25,036	15,766
65 歳以上	14,505	16,457	19,230	21,713	23,059	24,144	26,114	26,066	24,124	17,329
75 歳以上(再掲)	6,057	7,194	8,272	9,759	11,853	13,461	13,976	14,020	15,171	12,082

0～19 歳	28.1%	26.1%	23.5%	21.4%	19.5%	18.4%	17.5%	17.7%	14.7%	13.0%
20～64 歳	56.8%	56.4%	56.0%	55.1%	54.6%	53.3%	50.7%	50.4%	43.5%	41.4%
65 歳以上	15.1%	17.5%	20.5%	23.4%	25.8%	28.2%	31.7%	31.8%	41.9%	45.5%
75 歳以上(再掲)	6.3%	7.6%	8.8%	10.5%	13.3%	15.7%	17.0%	17.1%	26.3%	31.8%

(出典)総務省統計局「国勢調査」と内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局提供人口推計ワークシート(CD-ROM)により作成した本市基準推計

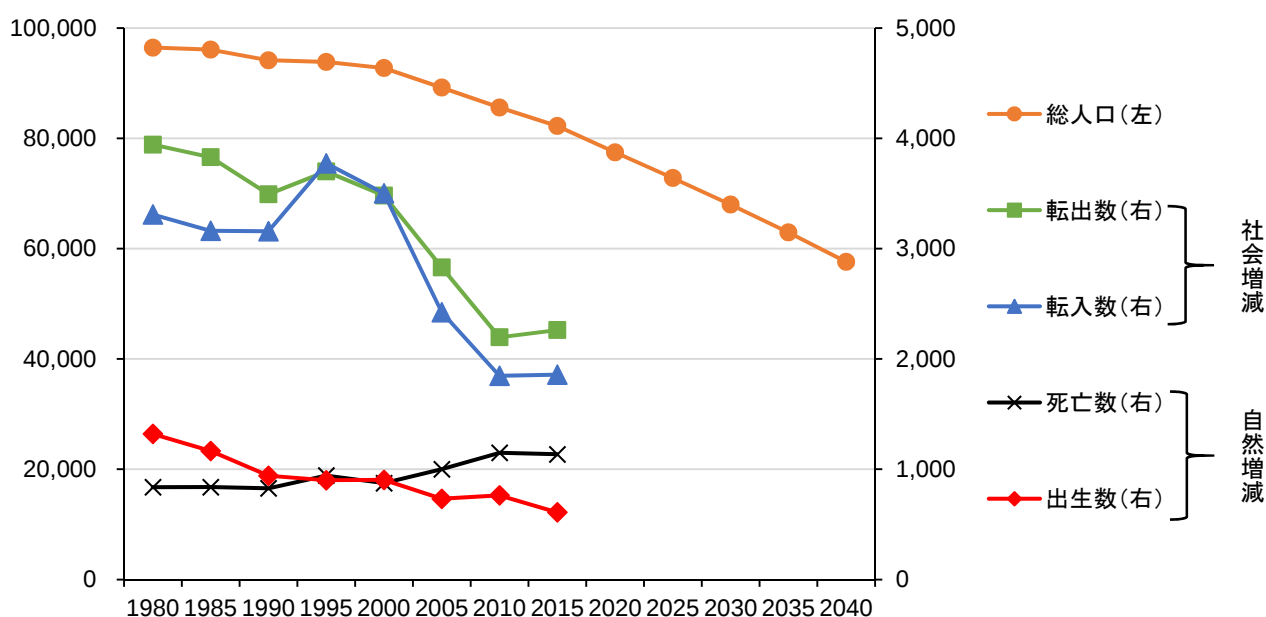
(4) 自然増減(出生数・死亡数)、社会増減(転入数・転出数)の推移

まちの人口の増減に関わる要因は、当該年中の出生数、死亡数、転入数、転出数の変化のみである。出生数と死亡数の差し引きを自然増減と呼び、転入数と転出数の差し引きを社会増減と呼ぶ。

自然増減については、2010 年以降も高齢化・少子化とも進行しており、死亡数の増加、出生数の減少がみられる。このため、2010 年－386 人から 2015 年－526 人となり、人口減少要因としての影響が拡大傾向にある。

社会増減については、2005 年、2010 年、2015 年の数値をみると、それぞれ－406 人、－350 人、－405 人となっており、ほぼ同水準で転出超過傾向が続いている。

【図3】総人口・出生数・死亡数、転入数・転出数の推移



【表3】総人口・出生数・死亡数、転入数・転出数の推移

	1980 年	1985 年	1990 年	1995 年	2000 年	2005 年	2010 年	2015 年
総人口(人)	96,448	96,086	94,163	93,859	92,752	89,208	85,592	82,250
出生数(人)	1,320	1,166	941	900	903	732	763	609
死亡数(人)	837	838	827	943	874	1,000	1,149	1,135
転入数(人)	3,310	3,162	3,157	3,773	3,501	2,424	1,847	1,857
転出数(人)	3,943	3,829	3,493	3,700	3,482	2,830	2,197	2,262
自然増加(人) 〔出生数－死亡数〕	483	328	114	-43	29	-268	-386	-526
社会増加(人) 〔転入数－転出数〕	-633	-667	-336	73	19	-406	-350	-405

(注) 合併(2005 年)前の数値は、現豊岡市内の旧市町間の移動数を含んでいる。

(出典) 1980～2015 年の総人口は総務省統計局「国勢調査」、出生、死亡、移動のデータは兵庫県企画県民部統計課「兵庫県の人口の動き」、2015 年以降の総人口の推計値は内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局提供人口推計ワークシート(CD-ROM)により作成した本市基準推計

(5)出生力の推移(出産適齢女性数・既婚女性数・出生率)

出生数の変化は、出産適齢女性人口、既婚率、女性一人当たりの平均出生数(合計特殊出生率)の変化に分解することができる。

- 少子化と若年人口の転出超過によって 15～49 歳、25～34 歳の女性人口は、引き続き減少している。
- 15～49 歳の女性未婚率は、2010 年 37.6%から 2015 年 38.9%に上昇している。
- ベイズ推定による合計特殊出生率の計算はまだ更新されていない。国勢調査ベースの合計特殊出生率でみる限りは、2010 年 1.94 から 2015 年 1.71 に低下したようである。但し、過去数値は上下しており、必ずしも一貫した傾向をみせていない。過去 5 年間の低下が、長期的傾向の一端であるのか短期的偶然であるのか、長期的な観察を要する。
- 以上のように、女性人口、既婚率、出生率ともに減少(低下)したことから、出生数は 2010 年の 763 人から 2015 年の 609 人へ減少した。

【表4】豊岡市：出産年齢女性の人口・結婚・労働参加・出産の推移

	人口 [†]		労働参加	結婚 [‡]		出産	
	15～49 歳 女性	25～34 歳 女性	15～49 歳 労働参加率	15～49 歳 既婚女性数 [‡]	15～49 歳 女性未婚率	合計特殊 出生率※	出生数
	(人)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(人)
1985	21,231	5,951	61.2	15,055	29.1	2.08	1,166
1990	20,726	5,281	62.6	14,137	31.8	1.87	941
1995	20,049	5,174	63.0	13,317	33.5	1.85	900
2000	18,604	5,362	62.8	11,984	34.8	1.75	903
2005	16,767	4,997	66.7	10,666	36.3	1.66	732
2010	15,386	4,213	67.4	9,552	37.6	1.82	763
2015	14,058	3,546	N/A	8,532	38.9	N/A	609

※ベイズ推定値

[†]年齢不詳者を除く

[‡]死別、離別を含む

(出典)総務省統計局「国勢調査」、兵庫県「人口動態保健所・市区町村別統計」

【表5】合計特殊出生率(国勢調査ベース)の推移

	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015
豊岡市	2.08	1.82	1.75	1.85	1.63	1.94	1.71
香美町	2.35	2.00	2.09	1.78	1.72	1.84	1.82
新温泉町	2.35	2.05	2.17	1.90	1.80	1.76	1.43
養父市	2.07	2.11	1.90	1.86	1.85	1.73	1.62
朝来町	2.14	1.95	1.80	1.84	1.68	1.72	1.67
但馬	2.14	1.92	1.85	1.84	1.69	1.84	1.68
兵庫県	1.75	1.53	1.41	1.38	1.25	1.41	1.48
全国	1.76	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39	1.45

(出典)兵庫県(2017)『平成 27 年保健統計年報』

【表6】合計特殊出生率(ベイズ推定値)の推移*

	1983-1987	1988-1992	1993-1997	1998-2002	2003-2007	2008-2012
豊岡市	2.08	1.87	1.85	1.75	1.66	1.82
旧豊岡市	1.98	1.80	1.78	1.75		
旧城崎町	2.01	1.93	1.84	1.66		
旧竹野町	2.23	1.94	1.89	1.69		
旧日高町	2.05	1.80	1.87	1.73		
旧出石町	2.09	1.81	1.85	1.90		
旧但東町	2.31	2.08	1.87	1.81		

「豊岡市人口ビジョン」(2015 年 10 月 30 日)より再掲

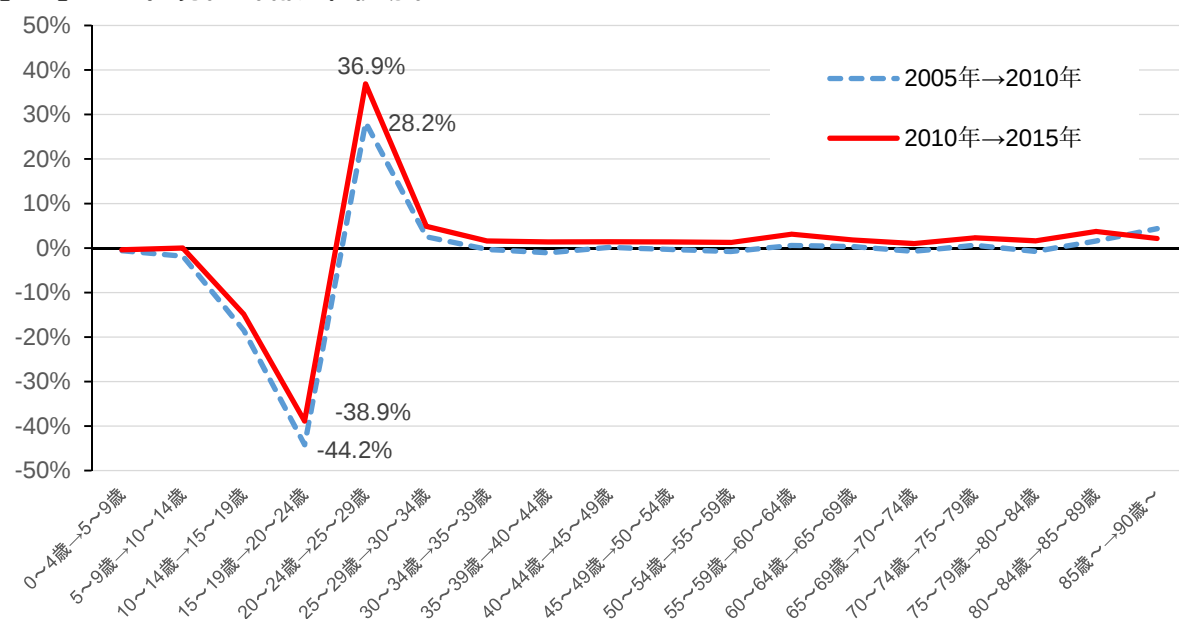
(出典)兵庫県「人口動態保健所・市区町村別統計」

(6-1) 純移動の特徴——年齢性別

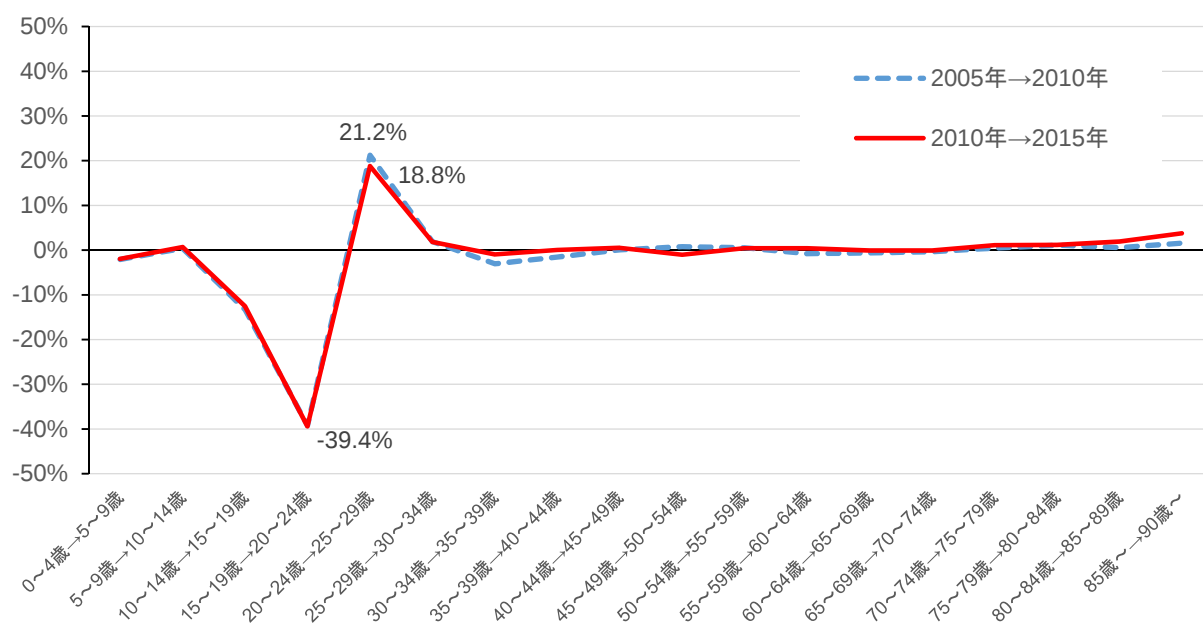
年齢性別の移動率は、女性についてはほぼ変化なし。男性については、10 歳代の転出超過（-44.2%→-38.9%）、20 歳代の転入超過（28.2%→36.9%）ともにやや数値が改善している。

このため、回復率（20 歳代転入超過数の 10 歳代転出超過数に対する割合）は、2010 年 34.2%から 39.5%に上昇している。若年男性の流出抑制に一定の改善の兆しがあることは望ましいところだが、若年女性の移動パターンに改善が見られないと「まちの出生力」の低下に歯止めがかからない。

【図4】豊岡市：男性・年齢別純移動率



【図5】豊岡市：女性・年齢別純移動率



（出展）厚生労働省人口動態・保健社会統計室作成の 2010 年兵庫県生命表（2013 年 2 月 28 日公表）、2010 年、2015 年国勢調査データを使用して筆者推定

【表7】回復率の推移

	1980 年 →1985 年	1985 年 →1990 年	1990 年 →1995 年	1995 年 →2000 年	2000 年 →2005 年	2005 年 →2010 年	2010 年 →2015 年
10 歳代の転出超過(人)[A]	3,399	3,613	2,885	3,067	3,009	2,587	2,130
20 歳代の転入超過(人)[B]	1,115	1,000	1,516	1,505	861	884	842
回復率 [B/A]	32.8%	27.7%	52.6%	49.1%	28.6%	34.2%	39.5%

(出展) 図 5 参照

(6-2) 純移動の特徴——地域別

他県への転出超過は、引き続き大阪・京都に集中している。

県内の転出超過は、以前は神戸市に集中していたが、明石市、姫路市に若干の分散が見られる。

一方で、但馬・丹後・丹波地域内の状況は、福知山市・朝来市への転出超過が若干の拡大傾向にあるのに対して、香美町、養父市、新温泉町、京丹後市から転入超過になっている。

2005 年→2010 年に比べて 2010→2015 年の転入、転出数値が小さくなっているが、これは、移動が収束しつつあると言うよりは、豊岡市や周辺自治体の人口減少のためと考えられる(移動者を送り出すまちの人口の縮小)。

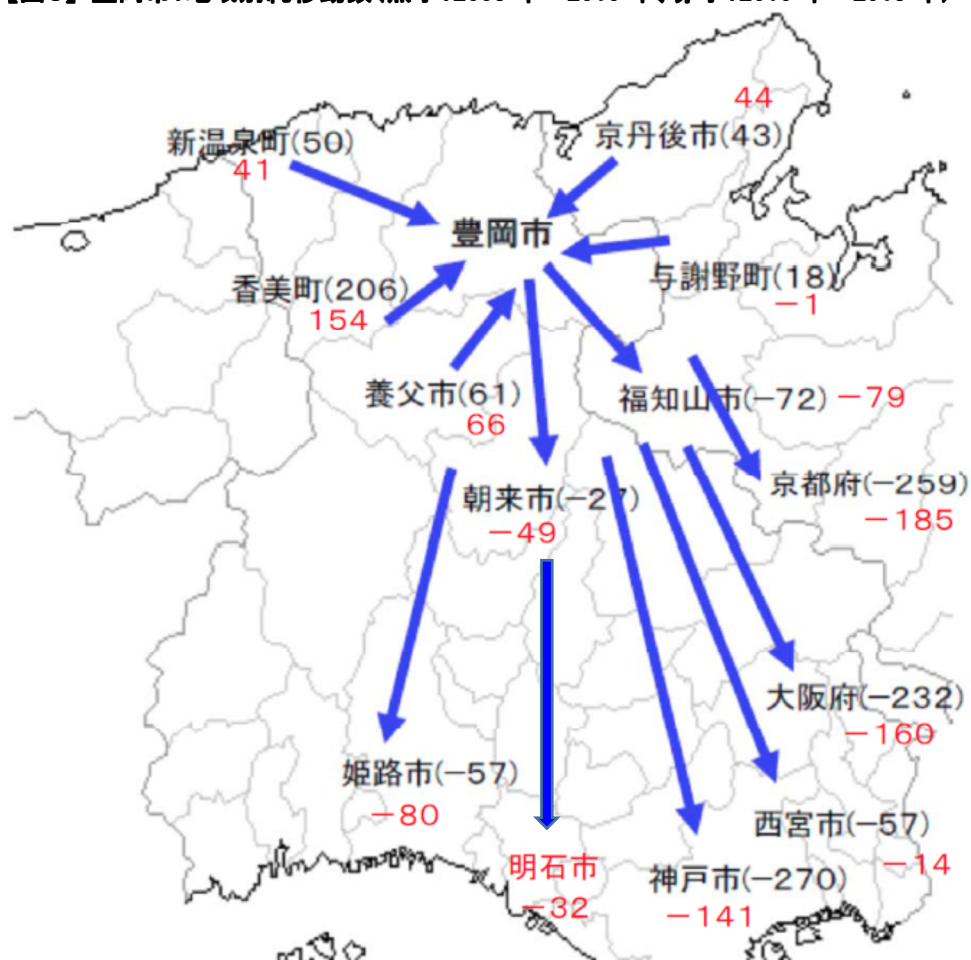
【表8】豊岡市:地域別移動数(2005 年→2010 年) (人)

総数(男女)	転入	転出	転入－転出
総数	5,368	6,271	－903
県内他市区町村	2,495	2,720	－225
他県	2,511	3,551	－1,040
国外	362	N/A	362

【表9】豊岡市:地域別移動数(2010 年→2015 年) (人)

総数(男女)	転入	転出	転入－転出
総数	4,961	5,551	－590
県内他市区町村	2,371	2,505	－134
他県	2,333	3,046	－713
国外	257	N/A	257

【図6】豊岡市：地域別純移動数（黒字：2005 年→2010 年、赤字：2010 年→2015 年）



※京都府京丹後市、与謝野町、福知山市は再掲